

## <センター等>

別紙2

### 全学内部質保証委員会の意見書

#### I 対象となるセンター等

福井大学高エネルギー医学研究センター

#### II 自己点検、外部評価実施時期

令和7年9月～11月（自己点検・評価）、令和7年12月（外部評価）

#### III 評価結果

##### 1. 今回の自己点検・評価は適切に実施されたか

適切に実施された

##### 2. 外部評価は適切に実施されたか（外部評価を実施している場合）

適切に実施された

##### 3. センター等の設置目的等や活動は本学及びセンター等の目的・目標等に沿ったものであるか

沿っている

ホームページの更新が滞っているように見受けられる。情報発信が強化されることを期待する。

##### 4. 設置目的等を達成する上で、組織、設備、財務等は適切か

おおむね適切である

女性教員や技術職員も含め構成員数の向上、一部構成員の不安定な雇用状態の改善、施設・設備の老朽化や利用しない装置の残存への対応、管理区域等の整理、大型外部資金獲得方策、学際的講座の設置や県内関連施設・企業との協働も含め学内外との連携の一層の強化などが期待される。

##### 5. 活動は本学及びセンター等の目的・目標等の達成に十分に資しているか

資している

##### 6. 活動によって人材育成が図られているか

おおむね図られている

外部評価において、カリキュラムを超える教育効果や地域・社会への教育的貢献が十分ではない、定常的な留学生の受け入れや工学部学生の受け入れが十分でない旨の指摘がある。人材育成においてセンターが果たすべき役割やセンターの教育的役割を改めて整理することも含め、ご検討いただきたい。

7. 内部質保証体制が適切に整備され、機能しているか

おおむね機能している

内部質保証体制が適切に整備されていることを要項等に示すとともに、内部質保証体制が機能していることを議事録や具体的改善事例等のエビデンスによって示し、体制の整備状況と有効性をより明確に証明することが求められる。

8. 外部評価における意見への対応、又は自己点検・評価での課題への対応は適切か  
(要項 別紙3, 別紙4)

適切である

様々な制約がある中で対応策がやや具体性を欠いている印象はあるが、段階的に対応方針が示されており、適切な対応がなされていると判断できる。

9. その他、特記すべき点・改善を要する点等

・特記すべき点: 目標を大幅に上回る 250 報以上の英文原著論文や科研費 30 件超等の顕著な成果を挙げている。特に PNAS 掲載論文や世界初の細胞膜再現装置開発は社会的影響力が大きく、外部評価において自己評価の A 評価を上回る S 評価を得るなど、研究の卓越性が認められる。これらの成果は中期計画の KPI 達成に大きく貢献している。

・改善が望ましい点: センターが引き続き多くの研究成果をあげ、教育・社会貢献において大きな役割を果たしていくため、外部評価において指摘された事項、特に女性研究者の不在・不足、安全性・研究水準の両面から急務との意見があった管理区域の再編、機器更新、研究導線の整理などについて、様々な制約はあると思われるが、改善を図って頂きたい。また、外部評価において「今後の飛躍に向けて優先されるべき課題」として「学際的連携の強化と組織の再編、安定財源の確保、教育的役割の再構築」の三点が挙げられていることに留意し、「学際的連携の強化と組織の再編」において新機軸を打ち出すことも考えられよう。

10. 上記を踏まえ、センター等の改廃についての意見

(1) 専任教員の配置は妥当か

適切である

(2) 現状どおり設置していくことは適切か  
適切である

人的、財政的基盤の強化・改善、研究成果の教育へのより一層の還元、学内外との連携強化などを通してさらなる発展を図っていただきたい。